



■ 学校教育目標

『自ら・共に拓く堺小っ子』

- 進んで考える子
- 思いやりのある子
- 心と体をきたえる子

発行日：令和5年3月24日

学校の変革期 資質・能力の育成 主体的・対話的で深い学び

て、早いもので1年が経とうとしています。本年度もコロナ感染症対応を余儀なくされる中での教育活動となりましたが、「(コロナ禍だからと)出来ないことばかり考えるのではなく、どうすれば出来るか」という視点で、子供たちの「学びの保障」に努めてきました。そういう中で、本校職員の英知を結集して、コロナ感染防止対応という“制約”を乗り越える様々な工夫を生み出し、今やれる範囲で最大限、子供たちの学びを保障することが出来たのではないかと振り返っているところです。また、保護者・地域の皆様のご理解に勇気づけられ、温かいご支援ご協力により力強く様々な活動を推進していくことが出来たと感じ入っているところでもあります。改めて「保護者・地域あつての堺町小学校」であることを実感致しました。

さて、本校は本年度、**重点目標を『「主体的・対話的で深い学び」の実現による子供の育成』、教師としての基本姿勢を「児童が主体となった授業の創造」とし、子供たちが予測不能な Society5.0 の時代を逞しく生きていくために、そんな時代の担い手となるための資質・能力(コミュニケーション力/想像力/忍耐力/自主性/自律心/自己判断力)を身に付けさせるために、「子供同士の学び合い」を意識した授業がどの教室でも実践されるよう、取組を進めてきました。また、授業だけでなく、学校行事や集会活動など全教育活動において、「学びの本質とともに、その学びを通して、どんな資質・能力を育成していくのか、子供たちに伝え、そのためにどんな目標を、また、どう行動しなければならないか、自身で考え、みんなで対話しながら考え、見通しをもち協働して課題解決に取り組む。そして、学びを振り返り、今後の活動や実生活に繋げていく。」というルーティンを徹底して取り組んできました。そういった取組の様子については、参観日や運動会などの行事、学級通信、学校便り、校長室便りなどを通して発信してきましたので、ご理解いただいているのではないかと思います。面談などを通して、先生方からは、そんな中、子供たちの学びに取り組む姿勢、態度が明らかに変化してきているという話を聞いているところで、来年度の「**共感的・協働的に学び合う堺小っ子の育成**」に向けての基盤がしっかりと培われてきているものと自負しているところです。**

また、この1年間、「全ては子供たちの未来のために」という思いで、「チーム堺小」として、上記の取組を重点にベクトルを揃え懸命に取り組んできましたが、ご期待に応えられなかったこと、ご不満に思われたことも多々あったかと思いますが、保護者アンケートでは高い評価をいただいております、本校の思いは保護者の皆様が届いているものと嬉しく感じているところです。

「現状維持は後退の始まり」と言われます。来年度も今に満足することなく、「当たり前を当たり前にする」プロ意識をしっかりともち、改善すべきは速やかに改善し、前向きにチャレンジしていきたいと考えています。

保護者の皆様には、来年度も本年度同様、変わらぬご支援ご協力をいただければと思います。本年度は、誠にありがとうございました。

気が付けば、春風が心地よい季節となって参りました。

そんな中、3月20日(月)には『第67回堺町小学校卒業式』を挙行し、卒業生57名が、浦河町教育委員、郷家PTA会長をはじめとしたご来賓や卒業生の保護者の皆様、在校生、本校職員に祝福され、立派に本校を巣立っていきました。

「光陰矢の如し」と言いますが、4月6日(水)に新年度をスタートさせ